



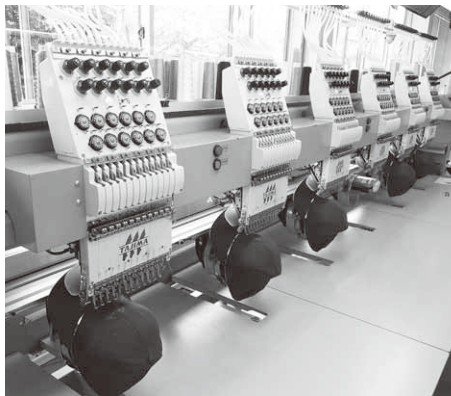
● 東毛ジャカード刺繍協同組合 ●

◆高度成長期に誕生

本組合の設立は昭和40年。日本が高度成長期を迎える中、大量かつ均一な高級品を製造し取引を拡大するため、家族経営中心の個人事業者50人以上が集まり組合を設立した。組合名にも使われている「ジャカード」とは、手刺繍ではなく、パンチカードと呼ばれるプログラムを読み取りながら機械で製造する刺繍のことである。

本組合は、刺繍製品を一括受注し、組合員が各工場で生産。その後、組合で検査・荷造り・納品を行い、短納期・高品質・低価格の製品の供給を確立している。

主にワッペンの刺繍の製造を



帽子専用の自動刺繍機

行っており、過去には、東京オリンピックの日本選手団が胸につけるワッペンの刺繍も手掛けた。平成8年、新事務所兼加工工場が完成し、更なる生産効率のアップを果たすなど、日々革新を行っている。

◆機械化・省力化

組合加工場では、レーザー裁断機やコンピュータミシンを導入するなど、積極的に機械化・省力化に取り組んできた。組合員の負担となっていた作業を機械化することで、組合員が本来の「刺繍」という得意分野に集中し、品質の安定・向上を実現している。

一方で機械化が難しく、手作業に頼る工程も多いため、作業現場では、多くの女性の活躍が目立つ。

◆人の技

ジャカード刺繍製品の出来の良し悪しは、パンチカードで決まる。図案をパンチカードに変換する作業はパソコンを活用するが、刺繍する素材、糸の太さ、縫い糸の動きなどを考慮しながら変換作業することで刺繍の見た目は全く変わり、動物の刺繍なら、まるで生きているように見えるという。こうしたノウハウの蓄積が他社との差別化につながっている。



パンチカードの作成作業

こぼれ話

本組合の斜め前に「祇園」という甘味処がある。店名のとおり、一見、京都の料亭風の佇まいだ。一歩店内に足を踏み入れると、純和風なインテリアとお香の香りで日常の喧騒を忘れさせてくれる。

今の季節は秩父の天然水を使った「かき氷」が一番人気。季節毎の果物などこだわり抜いた素材の味と非日常空間に酔える店。ただ、大人に寛いで頂くため、小学生以下のお子さんは入店できないので、お出掛けの際は注意が必要である。

組合の概要

○所在地	桐生市新宿3-7-34
○代表理事	西村千春
○出資金	50,000,000円
○組合員数	9名
○主な事業	共同受注事業、共同加工事業、 共同購買事業
○成立年月日	昭和40年6月25日
○ホームページ	http://www.tomo-j.or.jp

また、ミリ単位の精度が要求される自衛隊員の制服の階級章の刺繍を継続して受注するなど、品質の高さが評価されている。

同業界は、中国等の安価な輸入品との競争で厳しい経営を強いられているが、競争力を高めるべくプリント印刷との複合的な商品加工も行っており、組合は総合加工業へと発展し活動範囲を広げている。